

=====
CONTENTS

- 巻頭言
- 第63回全国学術大会自由論題など募集のお知らせ
- 第9回太田勝洪記念中国学術研究賞の発表
- 事務報告
 - 2012-14年 第1回常任理事会議事録
- 地域部会活動報告
 - 関東部会春季修士論文報告会
 - 西日本部会春期研究集会
- 学会スケジュール（予告）
 - 2013年度関西部会大会（6月8日）
 - 東海部会研究報告会（6月22日）
- 日本現代中国学会事務局あて寄贈図書・雑誌
- そのほか

=====

■ 巻頭言

中国再認識の多元的解読コードを求めて

放送大学 西村成雄

「2012年現象」ともいふべき日中関係をめぐる政治的矛盾の噴出とその持続化は、実に多くの分析課題を提起している。とりわけ、21世紀段階の中国政治をどのように再認識し、どのように相互関係性を再構築するのかなど、ますますその多元的解読コードが必要となっている。

そこで、21世紀中国理解にとっての一つの解読コードを少し長い視点から考えてみたい。というのも、21世紀中国という歴史的社会の地層は、それ以前の20世紀的地層との相互浸透性のなかにあり、さらに19世紀的地層の上に褶曲を含んで累積してきたといえるからである。この歴史的社会の三層構造は、その断面から見て、単純に過去のものとして存在しているのではなく、現在のにも各層ごとにその磁場をもち相互に影響を与えあう生きた相互変容過程にある。

19世紀層は、もちろんその基盤を18世紀層に置いているが、少なくとも政治空間的基盤は乾隆期の清朝最大版図にあった。20世紀層の二つの政治共同体（中華民国・中華人民共和国）も、その「五族・五域統合」的領域性(territoriality)を相続したものとして観念されてき

た。少なくとも中国大陸に生まれた優勢なエスニシティの政治家にとって、その自明性は大前提となる。であればあるほど、19・20世紀層にある諸列強による領域性への侵害という現実、常にある条件のもとで呼び返される歴史的資源とならざるを得ない。

と同時に、20世紀層の政治的枠組みは、すでに内部化された国際的圧力としての近代ネイション・ステイトという制度選択のなかにあり、それは19世紀後半から形成・蓄積されてきた。これをネイション・ステイト化過程というならば、その資本主義化を基盤とした、いわば上書き能力の強弱が19世紀層の磁場との相互関係性のなかで、ハイブリッドな政治的諸形態を生み出すこととなった。これも、ネイション・ステイト化過程に埋め込まれた「帝国性」との相互浸透性の解明という解読コードといえるだろう。

その意味で、ネイション・ステイト化の中国的展開過程は、とくに20世紀にあつては、第1四半期の孫文段階における「主権在民」型の大統領制・議会制導入とその挫折、第2四半期の蒋介石段階の「訓政体制」という「主権在党」型国家体制と特徴づけられる。もちろんそこには憲政への移行プログラムが準備されていた。1936年5月5日の「中華民国憲法草案」の実施を中断させたのは盧溝橋事変にあった。しかし、この憲政要求の政治潮流は、国際的国内的条件のなかで1946年12月には憲法制定会議・国民大会開催とその採択を生み出した。広くとれば、20世紀層の地下水脈として底流していることに留意する必要があるだろう。

20世紀層の現実的政治の枠組みは、大陸においては第2四半期の政治体制を経路依存的に第3四半期の毛沢東段階に接続しているともいえるが、その政治的正統性を受容する、あるいは抵抗する社会の側の重層的な階級・階層構造とその政治文化論的な解読コードがさらに求められる。第4四半期の鄧小平段階の新たな政治的正統性の調達は、経済的グローバリゼーションへの能動的順応過程のなかにあるとともに、2001年末のWTO加盟によって20世紀層の蓄積が一巡りすることとなった。

21世紀中国の再認識プロセスに、19・20世紀という200年を潜り抜けた歴史的な社会層の重層性を視野に入れることによって、「中華帝国再来論」や「中国異質国家論」、さらには「東アジア国家主義的対抗論」のもつ一面性、短絡性、脆弱性を相対化できないだろうかと思う。あわせて東アジアにおける「方法論的ナショナリズム」の相対化と新たな多元的解読コードの発見を期待したい。

■第63回全国学術大会自由論題など募集のお知らせ

2013年の日本現代中国学会全国学術大会を、10月26日(土)・27日(日)の日程で、福岡大学(<http://www.fukuoka-u.ac.jp/help/map/>、福岡市城南区七隈8-19-1、福岡市営地下鉄七隈線福大前駅下車)において開催することになりました。1998年の九州大学以来15年ぶりの福岡での開催となります。

今年の全国大会の共通論題は、私たち九州に住む者にとってはもはや日常的な問題となりました環境問題を取り上げ、「環境問題から見る日中連携」(仮題)というテーマで企画を進めております。そのほか、会員のみならず、以下を募集いたしますので、ご応募をお待ちしております。

- (1) 自由論題の報告希望者
- (2) テーマ分科会の開催希望者

【応募要項】

1.自由論題での報告（一人の報告時間は25分程度）をご希望の会員は、氏名・所属・報告題名および要旨（800字程度）を下記9のメールアドレスまでお送りください。

※大学院生は指導教員、またはそれに相当する人の推薦状を添付してください。

2.テーマ分科会の開催（報告者2-3名、約2時間）をご希望の会員は、テーマ名、企画者・報告者・討論者・司会の氏名・所属および設定の趣意書（800字以内）、各報告の報告題名を確定のうえ、下記連絡先までお送り下さい。原則として会員で構成、変更はできません。

3.ご連絡は、お問い合わせをふくめ、すべて電子メールでお願いいたします。その場合、添付ファイルは使用せず（推薦状も）、メール本文にテキストで記して下さい。※大学院生には指導教員、またはそれに相当する人の推薦状が必要ですが、それもメールで作成をお願いし、その転送のかたちでメール本文にペーストしてください。ウイルス感染を防ぐため、ご協力をお願いします。

4.締め切りは、6月28日（金）といたします。

5.学会非会員の方は、入会が報告申し込みの条件となります。入会申請（これは学会事務局に）をしていただいたうえで報告申し込みをお願いします。入会手続きが発表までに完了しない場合でも、申請が完了していれば発表は可能です。

6.報告希望、テーマ分科会企画が多数にのぼる場合は内容や会員歴などにもとづき、調整をさせていただくことがありますので、あらかじめご承知おきください。

7.報告申し込みをされたかたにはメールで実行委員会より申し込み受理の連絡をいたします。数日以内に連絡がないときにはメールでお問い合わせください。

8.自由論題報告者は大会の10日前までに報告原稿またはレジュメを実行委員会まで提出してください。

※パワーポイント等のための機器使用希望の有無を、申し込み時に必ず明記してください。

9.申し込み先は、以下の実行委員会メールアドレスです。

genchu2013fuk@gmail.com

この機会に当学会未加入の優秀な院生等にも是非、入会・発表をお勧めいただきますようお願い申し上げます。なお、大会当日にもし大きなイベントや他の学会が開催される場合、ホテル等が手配しにくくなることも予想されます。宿泊先は早めに確保されることをお勧めいたします。

第63回全国学術大会 福岡大学実行委員会
事務局代表 間ふさ子

■第9回太田勝洪記念中国学術研究賞の発表

2013年1月26日（土）に開催された中国研究所新年会において、杉山文彦理事長より第9回太田勝洪記念中国学術研究賞は受賞論文の発表および賞状・賞金の授与が行われた。なお、日本現代中国学会の『現代中国』編集委員会は今年度の同賞への論文推薦を見送った。

■事務報告

□2012-14年 第1回常任理事会議事録

日時：2013年2月3日(日)13:30-16:30

場所：福岡大学 A 棟地階共用室

出席者：高見澤磨理事長、日野みどり副理事長、川島真事務局長、阿古智子会計担当、趙宏偉関東部会代表、辻美代関西部会代表、新谷秀明西日本部会代表、大西広編集委員長、大澤武司広報委員長

開催校代表：坂元ひろ子（一橋大学、2012年）、間ふさ子（福岡大学、2013年度）

欠席者：菊池一隆東海部会代表は欠席、書面提出

●報告事項

1.経過報告(事務局)

川島事務局長より、冒頭、会員数について報告がなされた。2013年2月1日現在で、個人会員723名。団体会員5団体。この間の新規入会は17名であった。

1) 2012年大会総括

川島事務局長より2012年大会が盛会で終わったことが報告され、引き続き坂元実行委員長より資料「第62回日本現代中国学会全国学術大会」にもとづいて会計報告、および大会開催に際しての課題等が報告された。また、会計担当理事との間で、実行委員会経費のメ方について確認がなされた。

2) 地域研究コンソーシアム総会

高見澤理事長より、2012年11月に北海道大学で開催された地域研究コンソーシアム総会の模様が報告された。

3) 地域研究学会連絡協議会（JCASA）総会

川島事務局長より、2012年12月に立教大学で開催された地域研究学会連絡協議会（JCASA）総会の模様が報告された。

4) 東洋学・アジア研究連絡協議会

阿古会計担当理事より、資料「東洋学・アジア研究連絡協議会・総会」にもとづいて、2012年12月に東京大学で開催された東洋学・アジア研究連絡協議会の模様が報告された。

5) 科研費出版助成

高見澤理事長より、会誌刊行に関して申請していた科研費出版助成については、引き継ぎ後の学内締め切りの問題、また出版助成の内容の変更等があったことに鑑み、今年度は申請しないこと、今後は科研費がなくとも刊行が可能な学会財政を目指すことが報告、確認された。

2.会計報告

阿古会計担当理事より、会費納入状況について報告がなされた。2月1日現在、723名の会員のうち、未納なしが405名、未納1年が237名、2年以上が81名である。

また、資料「会計報告」にもとづいて、大学生協の経費が報告された上、現在学会が有している幾つかの口座を統合することも合わせて報告された。

3.編集委員会報告

1) 編集状況

大西編集委員長より『現代中国』86号が2012年9月に刊行され、目下、新体制の下、2012年大会の成果を盛り込んだ87号の編集が始められていることが報告された。

2) 編集委員の追加について

大西編集委員長より一名の編集委員が追加されたことが報告された。

4.広報委員会報告

大澤広報委員長より、広報委員会（学会 HP、ニューズレター各担当）の新体制、およびそれぞれの引き継ぎ状況、活動状況が報告された。

5.地域部会報告

1) 趙関東部会代表より、2013年1月12日に定例研究会が実施され、また来る5月11日に修士論文報告会が予定されていることが報告された。

2) 辻関西部会代表より、2012年12月15日に講演会「日中関係を考える会」を実施したこと、また6月には関西部会大会を実施予定であることが報告された。

3) 新谷西日本部会代表より、部会研究会は年度開けに予定しているが、2013年度全国学術大会の実施部会であることもあり、頻繁に会合を開いていること等が報告された。

4) 菊池東海部会代表欠席のため、書面により、2012年12月10日に菊池理事以下五名の理事の出席の下、東海部会発足を愛知大学で開催したことをはじめ、部会の運営体制、部会発足の経緯（趣旨書）、活動方針、2013年度の活動方針が報告された。この部会では、菊池理事を代表、三好章理事を総務、砂山幸雄理事・黄英哲・宇田川幸則の各理事が事務局を構成する。

6.その他 特に報告はなかった。

●審議事項

7. 新入会承認

常任理事会の間では新規の承認案件はなかった。

8. 会員の異動にともなう所属の変更について

会員の異動にともなう所属の変更、また各部会での役職の変更については次の原則が確認された。

[会員の所属変更等にともなう所属部会の取り扱いについて]

(1) 会員の住所・所属先の変更：事務局に届け出に際して、所属部会も届け出を求め、届け出がなければ、事務局からたずねる（選択肢は、従来どおり、新住所地、新所属先地に基づく）。

(2) 理事・部会役員以外の役職：（次期体制まで）変更なしとする。

(3) 理事の場合。理事としての地位・職務はそのまま。但し、理事としての所属は選択した部会。（例えば、通山先生が4月1日から関東部会を選択された場合には、関東部会の理事

として部会理事会にご出席いただきます。但し、他方で今期の間は西日本部会の活動を支えることも仕事のひとつとして残ります。なお、組織検討委員会委員長としての役職は変化なしです。)

(4) 次期理事選挙事務：新たな所属部会として扱う。

(5) 理事ではないが部会役員の場合：新たな部会を選択した場合には原則として当該役員をはずれるが、後任が決まるまでその職務を行うことを妨げない（むしろそうしていただきたい）。

(6) 会員に対しては以下のメッセージをホームページに出す。

「住所・連絡先・所属先に変更がある方は、事務局にご連絡ください。その際、本学会の所属部会（関東・東海・関西・西日本）についても変更が生じる方はあわせてご連絡ください。

住所・所属先所在地にかかわらず、従来部会を選択することも可能です」

(7) この申し合わせは、議事録が確認された日から試行する。秋の全国理事会に諮り、正式決定されたら、総会では報告事項とする。

9. 著作権の問題について

著作権については、機関レポジトリなどへの掲載等から、昨今問い合わせを受けることが多くなっている。そのため本学会として次のような方針を定めた。1)著作権は著者にある。2)『現代中国』に掲載された形式での版面についての権利は学会にある。3)著者から『現代中国』に掲載された内容のままで（版面のまゝを含む）、または若干手を加えるものの実質的には同内容で、他の媒体（電子版を含む）への転載を希望する場合には、学会に連絡していただき、学会としてはそれを承諾する。4)但し、市販されていることを考えて、奥付の日付から1年（もし次号がそれよりも早く刊行される場合にはその刊行日まで）は、公開を控えていただく。

10. 事務局体制について

高見澤理事長より、総会、理事会の場で今後の事務局体制についての意見が出されたが、本件については、理事長・事務局長および全国学術大会に関する覚書」をガイドラインとして運用するにとどめ、明確な規定を設けることはせず、また柔軟に対応すべき局面があることもふまえつつ学会運営を円滑におこなうとの見地から、当面は、二期（四年）ずつで東西交代とすることを一つの原則とする旨提案され、承認された。

11. 常任理事会等における経費支出について

常任理事会の交通費をはじめとして学会として必要な活動費には適切に支出すべきことが確認された。

また、会誌発行に関する経費など、節約の可能性がある部分については、方策を考慮することが確認された。将来的には財務問題が顕在化することが想定されており、節約、会費値上げも含め、今後検討していくことが確認された。

12. 2013年全国大会について

1) 開催校

間実行委員長より、資料「日本現代中国学会第 63 回学術大会（2013 年）会場等の準備状況」にもとづいて、会場の準備、昼食および懇親会の準備状況について報告がなされ、了承された。

2) 企画委員会

新谷西日本部会代表兼企画委員長より、資料「全国学術大会について」にもとづいて報告がなされ、共通論題テーマについての提案、議論がなされた。爾後、企画委員会、実行委員会で協議して共通論題テーマを確定する。

13. そのほか

1) 国会図書館からの申し出について

国会図書館から電子コンテンツの配信について申し出があった。これについて編集委員会からは『現代中国』コンテンツの電子化を行うべきかどうか今後検討をおこない、原案を作成して来夏の常任理事会で報告するとの報告があった。また、広報委員会からはニューズレターの国会図書館への納入につき特段の問題がないのではないかとの感触が示され、対応の原案を来夏の常任理事会で提出するとの報告がなされた。

■地域部会活動報告

□関東部会春季修士論文報告会

関東部会は、修士論文報告会を 2013 年 5 月 11 日（土）に東京大学駒場キャンパス 18 号館で開催した。参加者数は 26 名で、報告者と報告テーマは次のとおりであった。

菅野智博（一橋大学大学院 D1）「近代中国東北地方の農業労働者（雇農）と村落社会——満洲国期の農村実態調査資料からみる雇農農家の移住」（坂元ひろ子理事推薦）

松野友美（筑波大学大学院 D1）「十九路軍の福建省駐留に対するシンガポール福建人の対応——地域的視点から華僑を理解する試みとして」（山本真理事推薦）

原田明利沙（東京大学大学院 D1）「19 世紀末から 20 世紀初頭の華南権益をめぐる中仏外交」（川島真理事推薦）

李昇熹（東京大学大学院 D1）「文革終了直後の保守的指導者の改革・開放に対する見解について」（高原明生理事推薦）

李昊（東京大学大学院 D1）「ポスト毛沢東時代の中国の政治改革——政治制度改革と政治規範改革の成果と弊害」（高原明生理事推薦）

宮本真左美（埼玉大学大学院 D1）「艾未未作品の政治性の推移——陶磁作品を中心に」（坂元ひろ子理事推薦）

菅野報告からは東北地域の社会経済的構造の特質が、松野報告からはシンガポール華僑を介して郷土意識と国家意識との重層性がそれぞれ解明され、今後の中国研究にとっての重要な論点が示された。原田報告は、中仏関係史から中国近現代外交史を塗り替えようとする意欲的な報告であった。

李昇熹報告は、文革終了直後の保守的指導者も経済改革の必要性を認めていたことを指摘し、李昊報告は、1978 年ではなく 1976 年から穏和な政治改革（個人独裁から集団指導体制

への移行)が始まっていたことを指摘した。いずれの報告も、華国鋒政権を再評価するという研究潮流に位置づけられるものであった。宮本報告は、艾未未が中国および世界の政治・社会・知識・文化に対して、どのように批判的なメッセージを発しているのかを分析したものであった。一連の分析から、艾の独自のアート・スタイルが説得的に示された(例:河蟹=He Xie=和諧)。

□西日本部会春季研究集会報告

西日本部会は以下のとおり春季研究集会を開催した。

日時:5月25日(土)13時より

場所:福岡大学文系センター棟15階 第6会議室

研究発表(発表25分、質疑応答15分):

1. 大澤武司(熊本学園大学)

「中国外交部档案公開の現段階 - 「規定」の変更・適用厳格化と閲覧制限について」

コメンテーター 和田英穂(尚絅大学)

2. 大田千波留(九州大学大学院)

「《毛沢東》という記憶と共鳴するモノ」

コメンテーター 和田英穂(尚絅大学)

3. 金縄初美(西南学院大学)

「中国雲南省麗江地区におけるジェンダーの変容—馬帮の役割を中心に—」

コメンテーター 長谷千代子(九州大学)

4. 玄龍雲(西南学院大学大学院)

「中国朝鮮族社会の変化とジェンダー」

コメンテーター 長谷千代子(九州大学)

5. 王宇南(西南学院大学大学院)

「中国大陸における青春文芸誌に関する一考察」

コメンテーター 岩佐昌暲(熊本学園大学)

6. 松岡純子(長崎県立大学)

「『許地山選集』編纂について——1950年代を中心として」

コメンテーター 岩佐昌暲(熊本学園大学)

■学会スケジュール(予告)

□2013年度関西西部会大会

日本現代中国学会2013年度関西西部会大会を以下のとおり開催いたします。周囲の方々にもお声をかけていただき、多数ご参加いただきますようお願いいたします。出欠につきましては、別紙「参加申込書」にご記入の上、メールまたはファックスで事務局総務宛にご回答ください。会場の都合上、事前に参加人数を把握する必要がありますので、お手数ですがご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

参加申込書送信先：関西西部会事務局（総務）北川秀樹
メール：kitagawa@policy.ryukoku.ac.jp
ファックス：075-645-2101（「北川宛」と明記願います）

【日本現代中国学会 2013 年度関西西部会大会〈プログラム〉】

日時：2013 年 6 月 8 日（土）9:30-17:40（受付は午前 9 時より開始）
会場：龍谷大学ともいき荘（京都市上京区室町通下長者町下ル近衛町 38）
京都御所蛤御門西、護王神社裏
アクセス、地図 <http://www.ryukoku.ac.jp/tomoikiso/access.html>
参加費：無料（懇親会費用は別途）

【自由論題報告】 9:30-12:00（報告 30 分、コメント・討論 20 分）

【文学・歴史分科会】

司会：松浦恆雄（大阪市立大学）
第一報告（9:30-10:20）：高橋俊（高知大学）「上海の広東人—穆時英の小説から—」
コメンテーター：濱田麻矢（神戸大学）
第二報告（10:20-11:10）：池田智恵（関西大学）「1940 年代における孫了紅の「俠盗魯平案」について」
コメンテーター：松浦恆雄（同上）

司会：内田尚孝（同志社大学）
第三報告（11:10-12:00）：菊地俊介（立命館大学・院）「日本占領下華北における欧米キリスト教会の社会事業」
コメンテーター：内田尚孝（同上）

【経済・社会分科会】

司会：王京濱（大阪産業大学）
第一報告（9:30-10:20）：姚新華（北京大学）「中国におけるトン(侗)族の喫煙文化の社会学的研究—湖南省、貴州省および広西省での調査をもとに」
コメンテーター：小林正典（和光大学）
第二報告（10:20-11:10）：王娜（中央大学・院）「山東省における地方財政支出と都市・農村所得格差の実証研究」
コメンテーター：梶谷懐（神戸大学）
第三報告（11:10-12:00）：王勇慷（大阪産業大学・院）「中国の経済成長に伴う精神疾患の急増とその解決法としての内観療法」
コメンテーター：横井和彦（同志社大学）

【法律・政治分科会】

司会：王晨（大阪市立大学）
第一報告（9:30-10:20）：杜震（日本大学）「中国の「維穩」体制とその問題点」

コメンテーター：松村嘉久（阪南大学）

第二報告（10:20-11:10）：陳俊峰（同志社大学・院）「ミャンマーのミッソングダム建設凍結にみる中国の対外投資戦略の問題と課題」

コメンテーター：水野敦子（九州大学）

第三報告（11:10-12:00）：櫻井次郎（神戸市外国語大学）「中国における環境公益訴訟の試みとその限界」

コメンテーター：通山昭治（中央大学）

【環境分科会】

司会：林宰司（滋賀県立大学）

第一報告（9:30-10:20）：王天荷（京都大学・院）「中国における環境税の理論と現実—環境税の定義を巡る議論についての考察」

コメンテーター：川勝健志（京都府立大学）

第二報告（10:20-11:10）：寇鑫（龍谷大学・院）「中国乾燥地域における農村水資源管理システム—陝西省、甘肅省を例として—」

コメンテーター：窪田順平（総合地球環境学研究所）

第三報告（11:10-12:00）：金紅実（龍谷大学）「中国京津風砂源における砂漠化対策の展開と現状」

コメンテーター：窪田順平（同上）

【昼食休憩（12:00-13:00）】

【共通論題 シンポジウム】 13:00-17:40

「新しい日中関係を模索する—日中国交回復 40 周年を超えて—」

司会：西村成雄（放送大学）

趣旨説明：辻美代（日本現代中国学会関西支部代表・流通科学大学）

【特別講演】 13:10-14:40 丹羽宇一郎前駐中国日本大使

休憩(14:40-14:50)

【パネルディスカッション】

14:50-15:20 【政治領域】 西倉一喜（龍谷大学）

15:20-15:50 【経済領域】 服部健二（中央大学）

15:50-16:20 【文学・文化】 毛丹青（神戸国際大学）

16:20-16:30 休憩

16:30-17:10 フロアーからの意見および質疑

17:10-17:40 フロアーとの討論およびまとめ

【懇親会】 18:00-20:00

会場：京都ガーデンパレス（部会大会会場から徒歩 5 分）

一般 5,000 円 学生（院生） 3,000 円

*参加希望者は必ず事前にご連絡をお願いします。

●関西理事会のご案内

昼食休憩中に関西理事会を3階・研修室4にて開催いたします。関西理事の方は、5月27日（月）までに出席を事務局宛お知らせください。

●参加者の皆さんへ

1. 会場には、駐車場、駐輪場はありませんので、公共交通機関でお越しください。当日の昼食は周辺のレストランをご利用になるか、お早めに周辺のコンビニなどで弁当を購入するようお願いいたします。

2. 出張依頼状は公印を押す必要があるため、全国事務局で発行します。必要とされる方は、下記宛ご連絡ください。

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内

日本現代中国学会事務局

Tel 03-5307-1175、 Fax 03-5307-1196

E-mail: genchu@univcoop.or.jp

3. 関西部会大会では、学会費の取り扱いはいたしません。学会費は本部事務局に納入ください。本部事務局振替口座番号は、学会HPに記載されています。

4. 会場にはコピー機(カード式)が1台設置されていますが混雑が予想されるため、報告者の方は、配布資料をあらかじめ印刷してご持参下さい。

日本現代中国学会関西部会事務局：

〒651-2188 神戸市西区学園西町3丁目1番

流通科学大学総合政策学部 辻美代研究室

連絡先：

事務局総務・北川秀樹

kitagawa@policy.ryukoku.ac.jp

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学政策学部

ファックス：075-645-2101（北川宛と明記ください）

□東海部会研究報告会

東海部会の研究報告会を以下のとおり行うことが決定しました。

日時：6月22日（土）10:00-16:00（変更の可能性あり）

会場：愛知大学車道校舎（詳細は追って連絡）

報告者（追加の可能性あり）：

- 1) 岡崎清宜（名古屋大学PD・愛知県立大学非常勤講師）「幣制改革以後の四川金融」
- 2) 吉田陽子（愛知県立大学後期博士課程）「現代革命演劇と江青」
- 3) 呉米淑（愛知学院大学後期博士課程）「日本統治時代の台日観光事業」

■日本現代中国学会事務局あて寄贈図書・雑誌

・川口幸大・瀬川昌久編『現代中国の宗教—信仰と社会をめぐる民族誌』（東北アジア

ア研究専書) (2013/1)、昭和堂

・都留文科大学比較文化学科編『せめぎあう記憶—歴史の再構築をめぐる比較文化論』(2013/2)、柏書房

・徐友漁・遠藤乾・川島真・石井知章『文化大革命の遺制と闘う—徐友漁と中国のリベラリズム』(2013/3)、社会評論社

・杜康潤『中国トツゲキ見聞録』(2013/3)、新書館

・鹿雪瑩『古井喜実と中国: 日中国交正常化への道』(2011/9)、思文閣出版

・菅野敦志『台湾の言語と文字: 「国語」・「方言」・「文字改革」』(2012/2)、勁草書房

■そのほか

□学会 HP への会員 HP 情報掲載

現代中国学会 HP には、「学会会員 web-site」というページがあり、会員の HP 情報を掲載しています。ご自分の HP の URL 掲載をご希望される会員は、学会事務局までメールにてご連絡ください。学会事務局のメールアドレスは以下のとおりです。

genchu@univcoop.or.jp

=====

日本現代中国学会事務局

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22

大学生協学会支援センター内 日本現代中国学会事務局

TEL:03-5307-1175 FAX:03-5307-1196

genchu@univcoop.or.jp 郵便振替:東京 00190-6-155984

広報委員長: 大澤武司(熊本学園大学)

ニューズレター編集: 福田円(法政大学)

日本現代中国学会 HP: <http://www.genchugakkai.com>

=====